

古文書修復実習

日時 2017年2月19日(日) 10:00-17:00 2月20日(月) 10:00-17:00

会場 神奈川大学横浜キャンパス 3号館地下2階 日本常民文化研究所古文書修復室

講師

田上 繁(神奈川大学日本常民文化研究所所長)

関口博巨(神奈川大学日本常民文化研究所客員研究員・跡見学園女子大学講師)

白水 智(神奈川大学日本常民文化研究所客員研究員・中央学院大学教授)

山口悟史(東京大学史料編纂所技術職員)

内容 基本的な古文書修復技術の説明及び実習 ①現状の記録・解体 ②修理(繕い・裏打ち)
③復原(化粧裁ち・製本) ④襖や屏風などの下張り文書の剝離の工程実習

全国の資料保存機関勤務者の 参加による修復実習報告

田上 繁

節目となる第20回の古文書修復実習講座は、2017年2月19日(日)・20日(月)の2日間にわたって実施された。20回を数えた今回も初心者を対象とした、①記録・解体、②修理(繕い・裏打ち)、③復原(化粧裁ち・製本)の3工程と、近年、歴史資料として重視されてきた襖下張り文書の剝離作業の習得を内容としている。

例年、受講を終えた参加者からは、中級、上級の実習講座開催の希望が寄せられているが、依然として基本的な修復講座に定員のほぼ倍にあたる40名前後の全国からの参加希望者があるため、今年度も初級の技術の習得を目的とした講座を開催した。

今回の受講者も資料館、文書館、博物館、図書館などの資料保存機関に勤務される方がほとんどで、日常的な古文書などの整理業務に従事され、とくに、修復を依頼する業者との打ち合わせには



写真1 記録/古文書の撮影方法の実習



写真2 修理/裏打ち。和紙を裏から貼り補強



写真3 修理／裏打ちした本紙を仮張りに張る



写真4 修理／繕い。欠損部分を補修紙で裏から埋める



写真5 復原／化粧断ち。余分な裏打ち和紙を裁断



写真6 剥離／襖の下張り文書を剥離



写真7 剥離／剥離した本紙を毛氈上で乾燥



写真8 会場風景

技術的なノウハウを身につけておくことの必要があるとの理由で参加された方が多い。また、初日の夕食時に希望者の参加で開く懇親会も意見交換の場として好評のようである。

前年度はこの欄でアンケートにもとづく受講後の感想を掲載したが、今回は応募の際の動機について紹介してみよう。

(1) 職務にて古文書を扱う機会が多くありますが、もともと古文書について専門外であったため系統的に学んだことがありません。現在、職場区内の講について調査を進めていますが、傷んだ資料も多く取り扱いに苦慮しています。

(2) 古文書修復担当の1人として当館で修復を行っているが、襖や屏風の下張りの剥離はほとんど経験がないので、その方法を学びたい。

(3) 古文書の中には状態があまり良くなく、……修復する場合、自分でできるのが理想ですが、それが可能でなくても、業者に依頼する際に、どのような技術や工程があるのか知っていた方が、古文書の状態を把握する上で有用であると考え、講座に申し込みます。

(4) 古文書を整理・目録化し、市民に閲覧利用していただくことと、古文書を次世代に引き継ぐこと、この二つを大きな柱として日々業務に取り組んでいます。古文書を受け入れた段階で既に修復が必要な資料も多く、……自分の手で応急処理的な修復が可能になれば、破損を食い止めながら、整理作業ができるのではないかと日々悔しく思っています。

(5) 国宝指定を受けた文書約2万点をはじめとする文書、典籍を数多く管理しております。これらの保存と研究に、本年度より携わることになりましたが、研究と保存を両立した文化財管理者としての知見を得たく、貴所実習の受講を希望いたします。